

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	(1) 各領域において、知識や技能の個人差が大きい。書くことでは、漢字や仮名を用いたり、正しく改行したり、句読点を適切に打ったりする技能面で課題がある児童が多い。 (2) 自分の考えや感想をもち、他者に伝えることが苦手な児童が多い。話すことでは、相手や目的を意識した話し方ができるよう、さらに力を付けていく必要がある。読むことでは、理解したことに基づき、自分の考えや感想をもち、他者に伝えることができるよう指導する必要がある。 (3) 読書は好きな児童が多いが、国語を苦手と感じる児童が多い。	(1) 作文を書く際に構成シートを作成してから書くようにし、段落や文章のつながり、自分の考えを意識して書けるようにする。漢字については、定期的に小テストを行い、定着を図る。 (2) 話すことについては、授業以外にも朝の会や、小グループでのスピーチなど、相手を意識した話し方ができる場を多く設ける。また、実態に合わせて、話したい内容を精選するためのワークシートを使用する。友達との意見交流の場を充実させ、相違点や共通点を整理し、情報の共有を図る。全体や小グループを使い分け、全員が自分の考えを伝えられるよう配慮する。 (3) 読書の時間を計画的に確保し、様々な本に幅広く触れる機会を増やすことにより、国語の楽しさや魅力を感じられるようにする。	
社会	(1) 調べたことのまとめや、学習問題に対する自分の考えを表現することに課題がある。47都道府県の名称と位置の理解について、定着の個人差が非常に大きい。 (2) 社会的事象について、主体的に問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を高めていく必要がある。	(1) 学習のまとめの際に、つかむ段階や調べる段階に用いた資料を再度取り上げることで、各時間に学習した内容を関連付けてまとめることができるようにする。また児童相互に、まとめたものを見合い、どのようにまとめると分かりやすいかを学び合う時間をとる。都道府県については、授業の中で地図帳を活用する機会を多くつくり、知識の定着を図る。また、学期ごとに、定着の状況进行评估するテストを実施し、未定着部分は、地方ごとに覚えられるよう、小テストを実施していく。 (2) 単元の終わりに、学習したことを基に、社会的な課題に対して自分たちができることを考えさせ、宣言やポスター等にまとめる。内容については、できるだけ具体的で、実施可能なものを考えさせる。	
	(1) 既習事項の理解や、正確に計算したり図をかいたりする技能は、個人差が大	(1) 課題を提示し、自力解決をする前に、必要な既習事項を振り返る時間を設	

算 数	きく、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る必要がある。(特に、コンパスや三角定規、分度器などを正しく使って図をかくことについて、個人差が大きい。) (2) 計算の意味の理解にまでは至っていない児童が多い。 自分の考えを分かりやすく表現する力を高めていく必要がある。 (3) 学習を生かす場面が授業内に留まっている。	定する。 かけ算・わり算の筆算の仕方や、角度を測ったり図をかいたりすることについて、必要に応じて復習し、定着を図る。 (2) 児童の実態を把握し、それに応じ必要な図を板書して活用する。 多様な友達の考えを聞く時間を設定し、自分の考えを深められるようにする。 (3) 授業での学習を日常生活に生かすことができるような場面を問題に設定する。	
理 科	(1) 観察・実験には意欲をもって取り組んでいるが、問題解決の見通しをもたないまま取り組んでいる児童が多く見られる。 (2) 実験や観察の結果から考察したことを言葉で表現することが難しい児童が多い。 (3) 学習した内容を日々の生活の中で再認識している様子が見られない。	(1) 予想を立てる場面で、既習内容や生活経験を想起させることで、根拠をもった予想が立てられるように工夫していく。 (2) 実験結果を全体で共有した後、問題を振り返らせてから、結果に基づいた考察に取り組むようにする。また、理科で用いる用語について、適宜振り返り、意味を確実に理解させる。 (3) 授業での学習が日常生活に生かすことができるような具体的場面を問題に設定する。	
音 楽	(1) ハ長調の楽譜を読むことに慣れていない。リコーダーの学習では、学年に応じたタンギングや音色などの技能に課題がある。また、歌唱においても地声で歌う児童が少なくない。 (2) 歌詞と旋律の動きを関連付けて考え、どのように歌いたい言葉で伝えようとする児童が多いが、実際に表現ができる時間が少ないため、工夫に生かしきれていない。 (3) 全体的には、学ぼうとする意欲があるが、私語など学習規律に課題がある。感じたことや気付いたことを伝え合う場面では、発言できない児童もいる。	(1) 毎時間フラッシュカードを用いて、読譜に慣れるようにする。リコーダーや歌唱の学習では、範奏・範唱や友達の演奏を聴き合い、タンギングや音色、自然で無理のない歌声などに気を付けて表現できるようにする。 (2) 歌唱の学習ができる期間は、様々な表現方法を試し、感じたことや気付いたことを全体で共有し、工夫する楽しさを味わえるようにする。 (3) 互いを認め合えるような発表の話型を示し、間違ってもよい、友達の意見を聞いたり発言したりしやすい雰囲気づくりをする。学習規律については、その都度具体的に指導と称賛を示す。	

図 画 工 作	(1) 筆やパレットの使い方にはある程度習熟しているが、玄翁やノコギリ、段ボールカッターなどの道具にはあまり触れてきていない。 (2) 発想することに苦手意識があり、他の児童の取り組みを見て真似ることで作品づくりに取り組んでいる児童が一定数いる。 (3) 図画工作の授業には意欲的に取り組むが、発想の持続性に乏しく、最後までよく考えて多様な作品づくりをすることが難しい児童が多い。	(1) 同じ道具を複数の題材で使うようにし、中学年で体験する道具に触れる機会を多くして、道具の扱いに慣れさせていく。 (2) 構想を決めてからつくるだけでなく、行為や偶然生まれた形から発想を広げていける課題を取り入れ、発想の枠を広げる。 (3) 高い意欲を維持できる魅力があり、多様な発想を生み出せる余地のある題材を実施していく。	
体 育	(1) 各種運動の行い方は理解しているが、基本的な動きや技能に個人差が見られる。 運動の細かいポイント（助走・踏み切り・空中姿勢・着地のような）までは理解できていない児童が多い。 (2) 運動の知識があつたり技能が高かつたりする児童は、課題解決に向けて工夫し考えられるが、知識があまりなく技能の低い児童は工夫の幅が狭くなり、課題解決が困難になってしまうことが多い。 (3) 課題を見付けることはできているが、課題を次のめあてに生かすことができていない。	(1) 主運動につながる基本的な運動の充実を図り、最低限の技能が獲得できるようにする。 運動に必要な動きや技能のポイントを確認し、それぞれにつながる運動を取り入れていく。 (2) 運動のポイントと比べて何ができて、何ができていないのかを、実感できるようにし、教師や友達の助言から生かすようにする。友達とよさを伝え合うように指導する。知識や技能に課題のある児童は、友達のよさを取り入れるように指導する。 (3) 学習カードを活用し、授業の導入で、前回の振り返りを思い出させ、自己のめあてを明確にさせる。振り返り際には、次回の課題を書いておくように指示する。	
外 国 語 活 動	(1) 学校の外で学習している児童と、そうでない児童で差が見られる。昨年度までの内容が定着している児童とそうでない児童の個人差が大きく、3年生の学習内容の基礎的・基本的な学習内容の定着も図る必要がある。 (2) 日本語にはない発音を上手く発音することに苦手意識をもつ児童が多い。聞こえた音を繰り返すことはできるが、文字や写真を見て正しくそれにあった外国語を発音できる児童は少ない。	(1) 毎回の学習を始める前に前回までの復習を取り入れ、学習内容の定着を図る。 (2) I C Tをフラッシュカードの要領で効果的に使い、外国語から日本語、日本語から外国語に変換した単語、新出単語を表現できるように繰り返し復習していく。ALT を効果的に活用し、ネイティブの発音でたくさん練習を	

	(3) 大半の児童が、毎回の学習のめあてに向かって積極的に学習に取り組んでいる。外国語活動の学習に自信のない児童は、途中で取り組みを諦めてしまう様子も見受けられる。	重ねることで外国語特有の音声を発音することができるようにする。 (3) 各単元のめあてを提示し、児童が見通しをもって学習することができるよう工夫する。児童が楽しく活動しながら外国語を学習できるような、効果的な学習活動を取り入れる。	
--	---	---	--